

令和2年11月5日

道道鷹栖東鷹栖比布線工事に対する要望書 に係る回答書

突哨山運営協議会役員会  
代表 出 羽 寛 様

比布町長 村中 一徳

日頃より、突哨山及び周辺の自然・環境の保全事業等に御尽力いただきまして、大変ありがとうございます。

早速ですが、2020（令和2年）年7月28日付けで提出がありました、道道鷹栖東鷹栖比布線工事に対する要望書 をいただき、その内容確認とこれまでの総括として、令和2年9月10日に第4回ワークショップを開催したところ、多くの方の出席をいただきまして、ありがとうございました。

ワークショップでは基本項目として5つの協議が行われましたので要点を報告しますが、詳細については別添「第4回ワークショップ議事録」のとおりとなります。

1つめとして『カタクリの移植について』ですが、こちらは道道昇格後の改良工事時に併せ、現町道付近にブロック移植にて移植するという事で合意をいただきました。時期は春の繁殖期を外し、鱗茎の深さを確認後に移植する事とします。なお、移植地については特定外来植物が侵入しないように管理を行います。

こちらは比布町で対応致します。

2つめとして『法面緑化について』ですが、工事区域内に特定外来植物の生育が確認された場合は、それらの生育区域が拡散しないように、可能な限り防除し被害の低減を図ります。また、現地のすき取り土を再利用するとともに、緑化部には無種子吹付工法を採用し、現在の環境を回復させる事が期待できる法面処理を考えています。こちらは改良工事時に対応致します。

3つめとして『側溝の形状等について』ですが、水生生物の移動を考えて横断水路を四角型の物を使用する事や、小動物の脱出用(斜路トラフ)の設置検討については、道道昇格後の実施設計において調査結果と照合し、三者(協議会、道、町)で現地を確認しながら設置位置や・形状等を設計に反映する事を考えています。こちらは工事設計時に対応致します。

4つめとして『ロードキル対策について』ですが、大型動物のロードキル対策については抜本的な対策は出来かねますが、供用後に事故等が多いようであれば、注意標識などで、対応していきたいと考えています。こちらは供用後の状況を見ながら比布町で対応致します。

5つめとして『ノスリの営巣について』ですが、工事年の早春に営巣するかの確認を行い、巣作りが行われている場合は工事時期を外し、巣立ち後に施工する事を考えています。調査時には、三者(協議会、道、町)で行う事として考えています。

以上となりますが、会議内でもありました様に、現段階での問題点については整理されていると思われますので、今後については詳細設計時や工事実施時に協議を行いながら事業を推進していきたいと考えていますので、これからもご協力よろしくお願い致します。

担当：比布町役場建設課  
課長補佐 大谷  
直通：0166-85-4807